

春夏秋冬



武蔵野会ニュース No. 148 平成25年1月5日
発行 社会福祉法人武蔵野会
本部 東京都八王子市台町1-19-3 TEL042(623)8509
<http://www.musashinokai.jp/>

新年のごあいさつ



お正月飾りを作成中
(練馬福祉園)

トピック 年金改革

年末の衆院選挙では医療と並び、年金制度の改革が焦点の一つとなりました。この問題では、少子高齢化が進む中、現役世代は負担が増え続ける一方、将来の受益は少なくなるという、世代間格差をどうするかが大きな課題です。しかしながら、各党とも、多数派である高齢者の利益を優先して、その具体的な解決策には触れずじまいでした。

社会保障給付費が既に年間百兆円の大台を超えたというなかで、負担と給付に係る世代間格差の問題を解決しながら持続的な年金制度をどのように構築していくのか。新しい政権の枠組みの中で党利党略にとらわれずに検討し、国民にも真実を説明して必要ならば痛みを求めめることも必要です。

社会福祉法人経営との関連で考えると、まず、安定的な財源としての消費税増税はやむを得ないと思います。これにより、障害者対策など、真に必要な施策の拡充にもつなげたいところです。ただ、増税の前提として言われている政治改革や行政改革と併せ、社会福祉法人にも一層の効率化や社会貢献が求められることを覚悟しておく必要があります。

年金の支給開始年齢の引き上げに関しては、雇用の問題と確実に連動する必要があります。武蔵野会は既に定年を65歳にしています。同じく給付抑制策として、現在受給中の高齢者に影響の大きい「マクロ経済スライド」のデフレ下での発動や、高所得者の年金減額なども課題となってきます。

社会福祉施設現場は子育て世代も含め多くの若い職員によって支えられています。安定した利用者支援の継続のためにも、職員の将来にわたる生活設計の見通しの確保は重要であり、年金制度はその柱となります。改革が若い世代に希望が持てるものとなることを、強く願っています。

社会福祉法人武蔵野会理事長 上野 純宏

新年挨拶

理事長 上野純宏



本年6月の法人創立50周年を前に、昨秋から主任や中堅、ベテランの職員とのダイアログ(対話)研修を実施しています。

職員の見解や要望を聞くとともに、法人の歴史や本部経営層の思いを伝え、今後の武蔵野会の世代交代に備える狙いがあります。

法人理念を内的基準化した利用者支援の深まり、若い職員の育成責任に係る自覚、施設や法人経営への建設的な提案など、しっかりした職員が多いことに、毎回、大きな喜びを感じています。

武蔵野会の次の50年に向けて、今年が新しいスタートとなります。皆さまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

今年も熱意溢れるご支援を願う

武蔵野会後援会 会長 石谷 暢司



自然の脅威と大災害を経験し、その復興の困難さを感じている私たちは、武蔵野会の理念である、共に助け合う精神の尊さを改めて知りました。その後援会も共通の理念の基に、その実

で働く知的障害者の方々が増加傾向にあるとのこと、大変よろこばしいことですが数値的にはまだまだ不十分です。師走のダブル選挙で明けた今年より一層福祉社会の充実に向け、明るい将来展望が描ける政治の力量に大いに期待したいと思っております。

中島 通子



災害時に助け合う日本人の行為が世界を驚かせているといえます。生活で一番活かされる能力を日本人はDNAとして持っているということなのでしょう。武蔵野会は今年50周年を迎えます。繊細な心遣いや気づき、マナーといった日本文化の中で受け継がれている能力は、理念によって利用者支援に具現化され、法人のDNAとして100周年に向かって受け継がれていくことでしょう。

金森 仁



君がため 春の野にいでて 若菜つむ わが衣手に 雪はふりつつ 光孝天皇 新春に降る雪は古来から吉兆とされています。萌え出る若菜は生命力の象徴で、これを食べると一年の健康が約束されます。 年末年始で疲れた胃腸に七草がゆなど如何でしょうか。

現のため、日々、会員と協賛の皆様のご熱意溢れるご支援を頂き、深く感謝申し上げます。なにとぞ本年度の目標達成に、なお一層のお力添えをお願い申し上げます。また、本会の活動を紹介する広報紙「ニュースレター」をご覧の上、率直なご意見・ご要望をお寄せくださいますよう、併せてお願い申し上げます。

法人役員挨拶(順不同)

廣本 肇



すべての挨拶の言葉は生きることへの感謝への心です。愚痴を言わず弱音を吐かず笑顔で努力します。

優しくあれ、逞しくあれ、ゆっくり呼吸し、ゆっくり動き、ゆっくり生きます。武蔵野会50年を祝うこの年、理事としてここに在ることを名誉であり、誇りであり光栄に思います。終わりのない道、「福祉」にどこまで歩き続けられるか、「生涯現役」への挑戦です。

青木 秀雄



職員各位の日夜のご尽力に厚く感謝申し上げます。もとにも、本年も、隣人愛と深い洞察をもって業務遂行に邁進する幸多き年と

高橋 信夫



今年には法人創立50周年を迎えます。ここから10年は武蔵野会の大きな変化が予想されます。まず、最初の5年は、施設の建て替えや、大規模な修繕が連続します。さらには新規事業となる9事業の複合施設の運営を開始します。その後の5年は次世代が運営する時代に入ります。1年1年前に進んで行けたらと思っております。

今坂 康志



私は、精神科医になって26年になりました。大泉病院の勤続25年の記念で、南米ウルグアイ、ガラパゴス諸島にダイビング旅行に行ってきました。まさに絶景の孤島。海の中では、ハンマーヘッドシャーク、陸では、海イグアナ、陸イグアナ、青足カトゥドリ、軍艦鳥に感動しました。ダーウィンの進化論は弱肉強食ではなく、適応であることを改めて認識しました。この感動を私の臨床に活かしていきたいと思っています。

谷口 健吉



【監事】 昨年の11月に、陸前高田市の某会社の社長さんとお会いしました。3・11大震災の日の

なりますよう祈念いたします。 足下を厳しく見つめていなかった日常生活から我に返らせ、人生に本来大切なものが何か、蘇らせてくれた東日本大震災から二年が迫ろうとしている。生活の質、福祉の向上とは何か、改めて考えたい。

渡辺 瞭



12月初旬に起こった笹子トンネル(中央高速道)の天井崩落事故もまだ事故原因は確定してはいないが、コンクリート、ボルト、接着剤などの劣化、亀裂、腐食など耐用年数が関係しているらしい。日本における高速道路、トンネル、橋などインフラは高度成長期の70年代から造られてきた。鉄筋コンクリートの耐用年数は50年と言われており「まさしく今から」である。「このインフラの莫大なメンテナンス費用は？」

村山 悦正



障害者の法定雇用率が今年4月に引き上げられることに伴い、高齢者の介護施設等

津波で、お父様、奥様、ご長男、そして3人のお孫様を亡くされるという、大きな大きな不幸に遭った方でした。会社の工場も流されたので、お仕事を辞めようと思ったそうです。でも、社員の「応援しますので、やりましょう！」の声に押され、新工場を建てられて事業を再開したとのこと。やはり、「人間は必ず誰かに支えられているのだなあ」と、ここでも実感しました。利用者は、職員の皆様の暖かい支えがあるから生きていけるのですね。また、職員の皆様は、利用者の笑顔に支えられていると思いませんか。本年もよろしく申し上げます。

春日 完和



武蔵野会のこれらの施設を訪れても、指導員の方々と利用者とかかわる様子、理念を実践されている指導員としての佇まいに胸を打たれる経験をしています。が、最初に特に強く「これこそ社会福祉の原点では」と印象づけられたのは、すぎな愛育園教育でした。届いた春夏秋冬No147「特集」から、当時の印象が鮮明に蘇りました。

*役員には以上のほか、青木昌子理事がいます。



武蔵野

共助の関係を構築

東日本大震災による障害者の死亡率が一般住民の死亡率の2倍以上であり、高齢者の被害状況も、岩手県、宮城県、福島県の3県の死亡者で60歳以上の高齢者が65・8%を占め、震災関連の死者数は、平成24(2012)年3月31日までに1632人にとほり、このうち66歳以上が1460人と全体の89・5%になるそうです。障害者・高齢者が災害弱者であり、避難する際に様々な障害があり、避難してからも様々な困難があることがわかります。

NHKハートフォーラム「東日本大震災 そのとき福祉現場は―被災経験から何を学ぶか―」で、大船渡市の「赤崎町デイサービスセンター」の報告では休んだ利用者を迎えに行ったところ、すでに民生委員が助けにきて無事だった事例、夫が認知症であることを隠していた夫婦は、助けが無く亡くなった事例が報告されました。仙台市の「CILたすけっと自立生活センター」からはメンバーが避難所に行ったが、トイレが使えない、車椅子は場所を取る、横になれないなど、避難所での生活は難しく事務所に戻らざるを得なかつ

た事例、また障害者が福祉避難所につながっていない、仕組みがあっても使わない、使えない事例等、当事者も入った仕組みづくりの必要性が報告されました。

高齢者や障害者にとって震災時の避難や避難生活が、いかに大変であるかは明らかです。平成18年に作られた「災害時要援護者の避難支援ガイドライン」で、対策が示されています。阪神・淡路大震災の救助状況は、自助3分の1、共助3分の2、公助0・7%が示すように、自助はもろろんですが、共助の大切さがわかります。福祉サービズ、地域とつながることで要援護者台帳への登録や日頃から当事者として震災対策に参画し地域との繋がりを積極的にもち、お互い助け合う関係を築くことが、自らを守ることに必要です。そして福祉サービズ、地域とつながっていない人をどうつなげていくかも今後の課題だと思えます。当園は災害時に福祉避難所として開設します。地域の一員として共に助け合う関係を構築することが当園の利用者を守り地域の障害者を守ることに繋がります。今後とも地域との関係を深めていきたいと思えます。

施設長 松岡 利明



武蔵野児童学園
施設長 山田貴美



すぎな愛育園
施設長 古島福江



八王子市心身障害者福祉センター
所長 上林 悟



希望の里
施設長 山内ゆきみ



八王子福祉作業所
施設長 森 直貴



八王子生活実習所
施設長 山内哲也 (本部次長)



大島恵の園
施設長 多々良康子



第2大島恵の園
施設長 金澤正義



さくら学園
施設長 安田喜人



法人本部
理事長 上野純宏 係長 津川志帆
本部長 高橋信夫 事務員 田代孝代
次長 中山政夫 事務員 宮城まどか

新年明けましておめでとうございませ
本年もよろしくお願ひ申し上げます
社会福祉法人武蔵野会職員一同



練馬福祉園
施設長 中島通子



練馬区立大泉町福祉園
施設長 木村文孝



練馬区立北町福祉作業所
施設長 川野文幸



練馬区立光が丘障害者地域
生活支援センター「すてっぷ」
所長 石野哲朗



練馬区立光が丘福祉園
施設長 松岡利明



西水元あやめ園
施設長 吉倉美佐子



東堀切くすのき園
施設長 岡部智彦



白鳥福祉館
施設長 福元 興



きね川福祉作業所
施設長 大和田 卓



世田谷区立駒沢生活実習所
施設長 宮原康輔



世田谷区立烏山福祉作業所
施設長 横尾泰朗



世田谷区立世田谷福祉作業所
施設長 野々村武志



世田谷区立九品仏生活実習所
施設長 村山俊彦



小平福祉園
施設長 大島安彦



千代田区立障害者福祉センター
施設長 須永 正

防災士の誕生

災害時の 要援護者支援

武蔵野会では第三期中長期経営課題のひとつに「大震災時の事業継続計画（BCP）推進」を掲げました。3・11の東日本大震災以降、社会福祉施設は被災者支援の拠点としての役割が強く期待されています。これを受け武蔵野会は社会貢献の一環として災害時の地域の要援護者支援に積極的に関わっていく予定です。

10月24日、25日には、理事長、本部長、各施設長・管理職並びにBCP推進担当者等が特定非営利活動法人日本防災士機構の主催する「防災士」認定講習を受け、50名の防災士が誕生する見込みです。この「防災士」を中心に、今後法人の震災対策と地域防災連携を強化していきます。

具体的には、平成25年度には法人の入所施設で被災時を想定した大規模な避難所運営の演習を行い、避難所経営のノウハウを蓄積していきます。翌26年度までに本部と全事業所において実効性の高いBCP体制を構築します。

現在、本部と御殿場、大島をつなぐ衛星電話網や日本福祉大学並びに全国13法人との間に被災支援の相互協力体制を構築しつつあります。震災対策は一朝一夕にはいきませんが、首都直下型や東海大地震に向けた対策に真摯に向き合っていきたいと考えています。



「防災士」認定試験に全員合格

職員の育成

新任職員 フォロワーシップ研修

当法人では平成24年度採用された職員は64名でした。新任の職員研修は3月の下旬、伊豆大島を会場にした2泊3日の合同研修から始まります。この研修では法人の理念と沿革を知り、職員としてのマナーを身につけることに力を入れています。そして「私たちの目指す職員像」をテーマにKJ法を用いたグループ討議を行い、この時のメンバーが年間の研修を共にする仲間となります。新年度を迎え、それぞれの所属先での現場研修に入ります。9月からの新任職員フォロワーシップ研修では、この半年間の振り返りをグループでまとめて報告します。会場となったエリアの施設長による理念の語り、メッセージの講義を行い、懇談会を行いグループごとに集まり交流や情報交換をしています。最終的には研修シートによるレポートを提出してもらいます。理念経営を標榜する当法人では、理念を理解し実践できる職員になってもらいたいと願っています。



東堀切くすのき園

10月7日に「くすのき祭」が開催されました。朝はあいにくの雨天でしたが、後半は天候に恵まれ、多くのボランティアや保護者の皆様のご支援で、近隣から多くのお客様をお迎えし模擬店やアトラクションを通じた楽しい交流の時間となりました。

練馬区生活支援センター「すてっぷ」今年度から利用者主体の「サークル活動」を始めています。すてっぷで出会った地域の仲間とともに、協力して自分たちが楽しめる活動を作れるようにするもので、現在は月に1回の料理サークルの活動を支援しています。

小平福祉園

施設の建て替えに伴う仮設への引っ越しまで6ヶ月となりました。新しい地域でも利用者の皆さんが安心して暮らせるよう、進めてきた準備も終盤です。残りの期間は心に余裕を持って作業を進めたいと思います。

きね川福祉作業所

就労移行支援事業では、めでたくお一人の一般就労が決まりました。他利用者に「僕に続いて下さい」という自信に満ちた言葉が、皆を勇気づけてくれました。10月にGENKIまつりを開催しました。区長も来所し、励まし

の言葉をいただきました。

烏山福祉作業所

11月11日、さぎょうしよ祭を行いました。利用者、家族、地域の皆さんが参加し、オリンピックキヤーにちなみ模擬店や催し物の内容を和太鼓やジャズオーケストラなど国際色豊かにして盛り上げられました。

北町福祉作業所

受注作業では、昨年、清瀬園よりいただいた「12段の丁合機」が役に立っています。12枚の紙が一瞬のうちに帳合ができ、利用者はそれを封筒に入れています。工賃アップにつながっています。

世田谷福祉作業所

就労に向けた取り組みが活発化しています。先日は府中本町まで企業見学に行ってきました。また、パン屋さんで実習を始めた方や清掃業務を提供していただける施設へ見学がてらご挨拶に行ったりもしています。様々な可能性を秘めた利用者の皆さんの活躍を心から願っています。

第2大島恵の園

12月1日、地元の有識者の方も招いて大島地区の支援事例報告会を開催。現場職員の意欲的な取り組み10例を発表。大島両施設合同の取り組みは、地域移行支援や修繕計画、日中活動の与那国馬ふれあい活動等でも進展、第58回伊豆大島椿まつりで馬たちと一緒にパレードに参加すべく練習中です。

被災地支援 ボランティア活動報告 平成24年度

昨年5月に理事長をはじめとする役員3名が、社会福祉法人 南相馬福祉会を訪問し、支援を申し入れ、6月から、南相馬市でのボランティア活動が始まりました。

12月までに20人前後の職員で7回の活動を重ねています。6、7月は、震災以来、放射能の数値が高く、立ち入ることが出来なかった同法人の特別養護老人ホーム「梅の香」の片付けを行いました。片

付けたゴミや未だ使用できそうな備品も、放射能にさらされていたという理由で、地区内からの持ち出しができず、施設の横に堆積積んで、ブルーシートで覆いました。8月からは、法人の事務局があり、高齢の方々が実際に利用している特別養護老人「福寿園」での活動をしています。車いすの手入れや、施設周りの清掃や、花壇の手入れなどが主だった活動です。同園の職員数は未だに少ないようですが、施設の雰囲気はともよく、毎回変わらない職員の皆

さんの笑顔と機敏で丁寧な行動には頭が下がります。

ボランティアの前日は、「いちばん星南相馬プロジェクト」の星さんの民宿に宿泊し、翌日の活動に備えます。星さんは、元市役所の職員で震災時の避難所運営にあたりていましたので、朝食後の時間に、避難所での話や、現在、中心となつて活動されている復興プロジェクトの話をしていただいています。ボランティア参加者は、被災された方々の言動をとおして、多くの学びを得る貴重な経験となっています。

「24時間テレビ」 福祉車両贈呈式

12月5日に日テレホールで「24時間テレビ」福祉車両贈呈式が開催され、日本テレビより、八王子生活実習所に福祉車両（トヨタノア）が贈呈されました。当日は上野純宏理事長と坂部博則主任が贈呈式のセレモニーに参加し、贈呈目録を頂いてきました。

現在、八王子生活実習所では在宅障害者に向けて機械浴槽による



日本テレビより贈呈目録をいただいた上野理事長



ソファ、ベンチの寄贈

希望の里

11月に東京善意銀行様を通じて、親切会関東支部様からの寄付金でソファとベンチを購入しました。本革でフカフカのソファはロビーで、ベンチは庭で暖かい陽をうけながら、利用者の皆さんが楽しんで過ごす姿があります。今後とも大切に使用させていただきます。



休憩タイムはゆったりとくつろいでいます

お知らせコーナー

1月

- 4日 成人を祝う会 (北町福祉作業所)
- 8日 新年会 (東堀切くすのき園)
- 9日 新成人を祝う会 (東堀切くすのき園)
- 10日 成人を祝う会 (きね川福祉作業所)
- 11日 成人式 (駒沢生活実習所)
- 11日 新成人を祝う会 (大泉町福祉園)
- 15日 虐待防止セミナー (法人)
- 17日 成人を祝う会 (白鳥福祉館)
- 24~26日 KOMA展・作品展 (駒沢生活実習所)
- 24日 第250回理事会 (法人)
- 27日 退園生会 (武蔵野児童学園)
- 椿まつりパレード参加 (大島地区)
- 29日 練馬地区実践事例報告会 (練馬地区)

2月

- 1日 節分の集い (すぎな愛育園)
- 2日 葛飾地区実践事例報告会
- 5日 施設公開 (大泉町福祉園)
- 16日 日本福祉大学提携法人サミット参加 (法人)
- 24日 カメラアマラソン参加 (大島地区)

3月

- 1日 春の集い (駒沢生活実習所)
- 八王子地区支援実践報告会
- 10日 東社協福祉マラソン大会参加
- 17日 壮行会 (武蔵野児童学園)
- 21日 第251回理事会 (法人)
- 22日 卒園式 (すぎな愛育園)
- 27~29日 法人新任職員研修

ショーケース

自主生産品紹介

新商品

練馬区立北町福祉作業所

パウンドケーキ、クッキーづくりを自主製品にしています。

この度、黒ゴマのパウンドケーキを発売しました。ゴマの風味が出て、お茶によく合います。



黒ゴマのパウンドケーキ

1個 500円

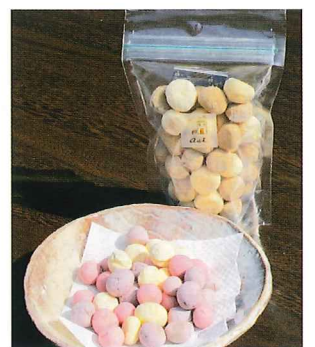
世田谷区立烏山福祉作業所

昔なつかしい「ぼーろ」です。生地にフルーツ(いちご、あんず)やコーヒーを入れました。

優しい口どけ、食感をお楽しみください。

希望の里

木工製品の干支シリーズも、今年の巳年で二巡目に入ります。古来より神の使いとして崇められている蛇。側に置くときつと良いことがありますよ。



ぼーろ

2種類: 1袋 150円



大 1000円
小 500円

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する24施設と4つのグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931

東京都八王子市台町 1-19-3

電話・FAX 042-626-9772